

研究へのご協力をお願い

研究課題名

「栄養素の味覚情報機構の解明を目的とした解剖学実習用遺体から得られた
味細胞の組織学的検討」

東京歯科大学短期大学
研究責任者：教授 安松 啓子

この度は、東京歯科大学にご献体いただきましてありがとうございます。献体登録者様には、歯科医学教育ならびに歯科医学研究のため献体の生前同意をいただいておりますが、下記の個別研究をするにあたり、ご家族様にもご理解いただくため作成いたしました。

献体いただいたご遺体は、学術研究のために礼意をもってお取り扱いさせていただきます。

また、ご遺体が当該研究に用いられることについてご家族様にご了承いただけない場合は研究対象といたしませんので、下記担当者までお申し出ください。その際は、不同意書をお渡しいたしますので、必要事項をご記入の上ご提出をお願い致します。それによって献体登録者ご本人およびご家族様に不利益が生じることはございません。

1. 研究目的と意義

我々は味覚、つまり「食べ物の味を感じる仕組み」について研究しております。

人は油や砂糖を含んだ美味しくてカロリーが高い食品を食べ過ぎることにより、肥満だけでなく脳卒中や心臓病といった重篤な病気に罹患するリスクが高くなります。また、高齢者では味を感じにくくなるため食欲がわきにくくなることで低栄養状態となり、フレイル(心身の活力や筋力が低下し、介護が必要な状態へと近づいた状態)へとつながることも判明しており、社会問題となっています。このように人間にとって味覚は、食欲や全身の栄養状態と密接な関係があり、健康維持における重要な役割を担っているのです。

現在本研究では、甘味に脂肪酸を加えることで甘味が増大することと、その増大した甘味を抑えるメカニズムが存在することをマウスによって証明しております。そのようなメカニズムが人にも備わっている可能性が高いため、このメカニズムに関連する分子(GPR120, GABA 合成酵素や受容体分子)が人の舌に備わっているか検証する必要があります。これらを解明することで、将来的に食べ過ぎにより肥満傾向にある方や食欲がわからずに栄養不足となっている方に対して、味覚を通じた健康の改善が期待されます。

2. 研究方法

<この研究にご参加いただく方>

白菊会献体登録者様のうち、舌周辺に疾患が見られないご遺体

<この研究の実施内容・方法>

ご遺体の舌組織の一部を上記の研究目的のため、標本を作成して顕微鏡にて観察させていただきたく、ご協力をお願いしております。

<ご協力いただく事項>

献体登録者様の舌の組織標本作成および顕微鏡による観察

<研究期間>

本研究の研究期間は、2026 年 6 月 30 日～2030 年 3 月 31 日です。

3. 個人情報等の取扱い

ご遺体の年齢および性別に関する情報を使用させていただきますが、個人を特定することができないように白菊会事務にてご献体各々に番号を設定し管理いたします。

<試料・情報の保管方法とその期間>

ご遺体からいただいた舌組織は適切な処理を行い顕微鏡で観察できるような組織標本として保管いたします。

<試料・情報の廃棄方法とその期間>

作成した組織標本は半永久的に保管いたします。画像とデータに関しては論文発表 5 年後に完全に消去します。

4. 研究に関する情報公開の方法

<研究計画書の開示>

ご家族様のご要望がございましたら、他の研究対象者等の個人情報等の保護及び当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を開示いたしますので、ご希望の場合は下記に記載しております連絡先までご連絡いただきたく存じます。

<研究成果の公表>

東京歯科大学学会、日本味と匂学会等の学会での発表を予定しております。

また、研究成果をまとめた論文を生理学系の論文雑誌に投稿予定です。

その際にも個人情報保護に十分配慮し、成果の公表を行います。

5. 倫理審査委員会の承認

本研究は、東京歯科大学倫理審査委員会の審査を経て、学長の承認を得ております。

6. 費用等に関すること

新たに発生する費用負担等はございません。

7. 利益相反について

本研究はオーラルメディシン・病院歯科学講座の研究費や学内の研究費により実施します。
特定の企業から資金の提供は受けておりません。

本研究に関するご質問やご意見がある場合は、下記へご連絡ください。

お問い合わせ先

東京歯科大学短期大学

研究責任者（試料・情報管理責任者） 安松 啓子

連絡先

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-9-18

電話番号:03-6380-9088